

クローズアップ

# NGO・NPO

特定非営利活動法人

## 多言語社会リソースかながわ(MICかながわ) 医療通訳制度化への挑戦

Close Up

NGO・NPO

### ネットワークからの団体設立

神奈川県では、外国籍住民の生活支援に多くの通訳ボランティアがかかわってきた。交際費を含む活動費も自弁、ときにはアパートなどの保証人になったり、生活費を支援したりと、その献身的な活動により多くの人が救われてきた。

一九九九年二月、神奈川県社会福祉協議会かながわボランティアセンターは「外国人医療とことばの問題を考える会(以下、考える会)」を設置、通訳ボランティア、国際交流ラウンジなどのボランティアコーディネーター、医療従事者、国際交流協会、自治体などの関係者が集い、医療にかかわる通訳を巡る問題についての情報交換や課題共有を図った。この中では医療に命を絡む責任の重さ、扱う内容の高度さや専門的養成の必要性から、医療に関わる通訳をいわゆる「ボランティア」にはさせられない、と訴える意見が多かった。ここから、考える会は医療通訳ボランティア学習会を毎年開催した。また、医療通訳ボランティアガイドラインの小冊子を発行した。

一方、行政では、「外国籍県民かながわ会議二〇〇〇年一〇月の第一次提言に、医療について言葉や医療機関情報の問題解決を図る必要性が盛り込まれた。これを受けて神奈川県は二〇〇二年、県民部国際課が担当部署となり、医療通訳制度のための検討委員会を設置し、医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会の医療団体及び医師、MSW、NGO

会議、外国籍住民の医療ボランティア団体、自治体関係者、社会福祉協議会により、制度づくりを検討してきた。

そして、県が二〇〇二年に「かながわ外国籍県民医療通訳サービス支援モデル事業」を実施するのを受けて、考える会を発展的に解消して同年四月に設立したのが多言語社会リソースかながわ(以下、MICかながわ)である。

### 医療通訳派遣の制度化を目指して

#### コーディネーターの有用性

MICかながわは、神奈川県国際課との協働により一六病院(平成一六年四月一日時点)に医療通訳スタッフを派遣する「医療通訳派遣システム構築事業」をはじめ、医療通訳の養成・派遣を活動の柱としている。

この事業で最も注目すべきは、コーディネーターの存在である。病院からの派遣要請を受け、通訳の適性やレベルを考慮して選り、病院と通訳との間を調整、トラブル発生時のアフターケアやフォローアップも担っている。

病院での通訳場面では、精神的に負担が重い事例や予測不能な事態が避けられず、通訳には守秘義務もあり、一人で抱え込んで悩んでしまう場合が多かった。コーディネーターは通訳の悩みを積極的に聞き、助言したり、場合によっては病院や通訳に協力を求めることで、よりよい医療・通訳活動を実現できるよう努めている。また、派遣要請を分散させることで、一人の通訳に集中することを避け、同時に人材育成にもつなげている。そのほか

(特活)多言語社会リソースかながわ

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22 日興パレス横浜703

TEL&FAX 045-900-4675



↑かながわ県民センターに設置された「医療通訳相談ブース」。派遣コーディネーターが当番制で相談に当たる。ほとんどもが電話による相談だが、来訪相談も受け付けている

にも、医療通訳の事例がコーディネーターに集約されることにより、医療通訳の課題を分析していくリソースともなっている。

病院にとっては、電話一本で通訳を探してもらえる利便さ、通訳にとってはトラブルに遭っても言いやすい環境が整備され、コーディネーターの有用性は高く評価されている。

### システム構築への課題

今後の課題は、医療・病院用語や医療にかかわる社会制度についての基礎知識、対人援助・異文化コミュニケーションカウンセリング、シミュレーション演習やOJT等で構成する医療通訳養成プログラムの確立である。特に少数言語の通訳養成には、講師確保の困難を克服するために日本語による養成技術の開発も望まれる。

また、医療機関や医療従事者への医療通訳という活動についての啓発を行い、医療通訳

2003年度 医療通訳派遣システム構築事業 派遣件数 (単位:件)

	中国語	スペイン語	ポルトガル語	ロシア語	タガログ語	タイ語	英語	合計
2003年 4月	9	18	2	3	0	0	0	32
2003年 5月	15	30	7	1	0	0	0	53
2003年 6月	10	42	6	1	0	0	0	59
2003年 7月	11	48	6	2	0	0	0	67
2003年 8月	2	34	7	2	0	0	0	45
2003年 9月	4	45	10	0	1	0	0	60
2003年10月	5	34	9	0	0	2	6	56
2003年11月	6	39	12	0	5	5	4	71
2003年12月	8	35	9	5	4	2	0	63
2004年 1月	7	34	18	1	4	4	1	69
2004年 2月	4	17	13	0	3	7	6	50
2004年 3月	6	31	18	1	0	4	9	69
合計	87	407	117	16	17	24	26	694

\*2003年度は6病院に派遣。タイ語・英語は10月から派遣開始。

の必要性・有効性についての社会的認知を高め、地域社会全体の医療・公衆衛生の向上につなげていきたい。

そのためには最大の壁、通訳派遣に係る費用(事務局費用及び通訳・コーディネーター報酬)の問題を解決する必要がどうしてもある。それには医療機関だけではなく、命にかかわる社会公共サービスとして、行政にも費用負担を検討していただきたい。通訳の報酬のうち、何割を医療機関、何割を行政、などという議論に走りやすいが、実際に派遣を行ってみるとシステム全体を取りまとめる事務局の多大な負担なしには動かない。全体を眺望してどう制度を維持していくのか、という点で建設的に構築していく必要がある。そのためには、「外国籍 外国語」という観点のみならず、「医療・公衆衛生」という方向から衛生部局の大きな関与が本来的な姿であろう。行政内での横断的な取組みが期待される。

もう一つ、受入れ病院側の協力も不可欠である。医療通訳は何時でも何時間でも使えるボランティアでは無理である。むしろ、負担が大きく責任の重い職業と考えるべきである。医療機関側から見れば、言葉の問題に介入して円滑な医療サービスを提供する担い手の一部でもある。このような医療通訳の性質を理解し、医療従事者側の通訳受入れの姿勢及び態勢の整備から、待ち時間への配慮、通訳に関わるトラブルへの対処など、通訳の活動のしやすさを検討することは、一般患者へのサービスの向上にもつながるはずである。

また、医療通訳スタッフの派遣を通して見えてくる患者の問題はさまざまである。健康保険、子供の教育、在留資格、労働問題、交通事故など、通訳派遣から派生する生活相談は、医療通訳の介入だけでは解決しない事例も多く、病院のソーシャルワーカーの範囲外の課題に直面していることも多い。こういった事例への対応には、医療通訳担当者や生活支援担当者のペアワークが考えられる。生活支援担当者とは、外国籍住民のための民生委員のようなものを想定している。外国籍住民の抱える課題の多様さからすれば、民生委員よりもっと守備範囲は広くなるだろう。このような役割を担う人材の養成と活用についても考えていきたい。

MICかながわは、医療に限らず生活支援一般に関わる通訳及び支援者の養成を行い、言葉や文化のバリアフリー社会の構築を目指している。

# クローズアップ

# NGO・NPO

市民団体

## 国際交流の会・かるみあ ～ 違いを認め合って個性の活かせる コミュニティづくり～

Close Up

NGO・NPO

### 設立のきっかけ

一九九五年九月、(財)福島県国際交流協会の通訳ボランティア講座参加者の中の有志が国際交流をもっと身近に持てる機会をつくりたいと集まり、市民活動としてスタートした。会の名称の「かるみあ」はカルミアというピンク色の花に由来する。こんぺいとうのような形をした、一つ一つの小さな花がまとまって咲いたときに見事な調和を醸し出すことから、会の基本理念である異文化交流を通し会員自身が成長する姿を重ね合わせ、会の名称となった。

### 会の特色

「違いを認め合って個性の活かせるコミュニティづくり」を目的に、日本人だけでなく在住の外国人も共に同じ会員として活動することにより、サポートする側、される側という主客の関係にならずに、共に地域づくりをしていく仲間としての活動を行っている。在住外国人の出身地はさまざま、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、アメリカなど多様な地域からの出身者で構成されている。会全体での年齢、職業、出身地はバラエティに富み、多様な文化が共存しており、福島県初の多文化共生の会として、今年で活動九年目を迎える。

### 活動内容

「国際交流の会・かるみあ」は、「違いを認め合って個性の活かせるコミュニティづくり」を

達成する手段として、次の三つの活動を三本柱としている。

### ○ 国際文化交流活動

多様な文化背景を持っている会員の特性を活かし、異文化理解講座や、体験講座の実施を会内外で行っている。月一回の例会における講話形式での「私のふるさとウクライナ」「日本とスリランカの知られざる秘話」「トミニカ共和国について」「僕のまちドレスデン」や、自発的交流行事として不定期に行われる「中国を知ろう」「デンマーク料理教室」「イタリア料理をつくる」「タイ料理教室」などを開催し、それぞれの相互理解に役立てている。また、外国出身者からのみの発信に限らず、「着付けとマナー講座」「茶道を楽しもう」「どろんこ



↑「かるみあライブ」で安来節を踊る会員

(市民団体)国際交流の会・かるみあ

〒963-8025 福島県郡山市桑野1-22-11 サコービル1F 市民活動センター一気付

TEL 070-5622-6570 email: kalmia@npgo.jp URL: http://fukushima.cool.ne.jp/kalmianet/

田植え」「神輿をかつこう」「星と陶芸のタペ」など、地域団体の協力を得て日本の文化について共に体験し、学び合う機会を大切にしていく。在住外国人の日本理解に貢献するとともに、日本人も自国の文化について理解を深めることのできる機会でもあり、また地域との協力の輪が広がるきっかけともなる活動となっている。

### ○日本語学習ボランティア活動

会員内でのコミュニケーション活動の一環として週一回、日本語学習ボランティア登録をした会員有志により、日本語学習希望会員に向けて日本語レッスンを開催している。設立二年目から行ってきたこの活動の特色は、「チューター」と呼ばれる日本語学習ボランティアが研修を継続させながら、教えた経験のない初心者でも、積極的にかわられるようにしたシステムにある。会独自の「入門研修」と、地域団体との共催で行う「日本語ボランティア講座」により、教えるための勉強を継続し、多くの会員をはじめとした地域住民がその役割や教授法について習得できるよう配慮している。毎週月曜日の昼の時間帯での活動日には主婦層を中心とした会員が、火曜日夜の時間帯での活動日には、会社員や団体職員などの会員の参加が多く、それぞれのコミュニケーションを豊かにするための工夫を行っている。また、「日本語学習ボランティア活動報告会」の開催、「日本語ボランティア通信」発行などの活動も含めると年間約八〇回、年間のべ会員動員数が一五〇〇名といった、たくさんの会員がか

かわっている活動となっている。

### ○地域国際化協力活動

年に一回、会で培ったものを地域に発信する「地域公開行事」を設立三年目から行ってきた。パネルディスカッション方式で自国文化への認識について考える「世界文化フォーラム」、ライブ方式で多様性を認め合うメッセージを込めた「かるみあライブ」、キャンペーン方式で行った、ゴミ分別を通して環境問題を考える「かるみあエコキャンペーン」、ワークショップ形式で平和についてのメッセージづくりを行った「平和ワークショップ」などを開催している。毎年会員がそれぞれの知恵を出し合い、手法と目的について整理しながら発信することを積極的に行うことにより、地域社会との「地球規模で考え身近なところから行動する



↑2000年の「かるみあエコキャンペーン」では海岸でのゴミ分別啓発キャンペーンを行った

という協働意識づくりにも貢献している。

他方、地域の小、中、高校や公民館から講座の依頼も急増しているのがここ数年の傾向で、年間一〇回程の出前講座も行っている。講座の依頼内容はさまざまで、在住外国人との交流を通して多様な文化に触れる「国際交流講座」、地球規模で起きている世界のさまざまな出来事と自分たちのつながりを考える「国際理解講座」などがそれである。各依頼に応じて講座を調整し、よりよい講座づくりのための準備会、報告会を開催し、研修会への参加なども積極的に行っている。いずれにしても、外国人会員、日本人会員が共に知恵を出し合い、講座内容を充実させているところが特徴となっている。企画提供や講師派遣、またネットワーク会議への参加、多文化共生社会づくりに向けての政策提言活動も行っている。

### 今後の活動

当会での専任スタッフは設けておらず、事務局は会員全員が分担する形で運営を行っている。それぞれの「自発性」が会を支えており、それを活かせる組織づくりを推進するとともに、資金面、事務局運営面での不足分を何らかの形で解決していくのが急務となっている。また、多くの人材が集まり、地域からの熱い要望も高まっている現在、会員が培ったものを一人でも多くの人が共有できる機会をつくる「地域国際化協力活動」を発展させていきたい。